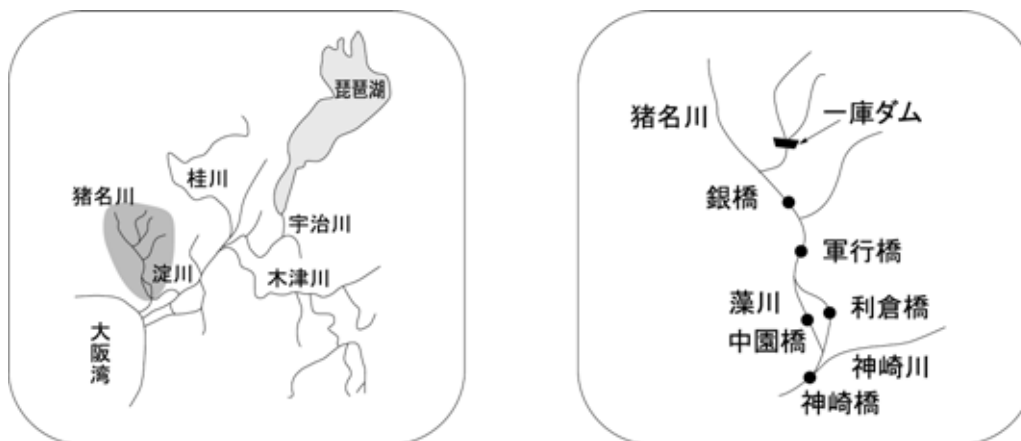


## 6. 猪名川

猪名川・神崎川は高度経済成長期に工業排水、生活排水などの流入により水質は極めて悪化したが、兵庫地域公害防止計画に基づく下水道整備の推進などにより、近年その水質はかなり改善されており、上流地域では環境基準を達成している。しかし、下流地域では汚染度が高い状態である。

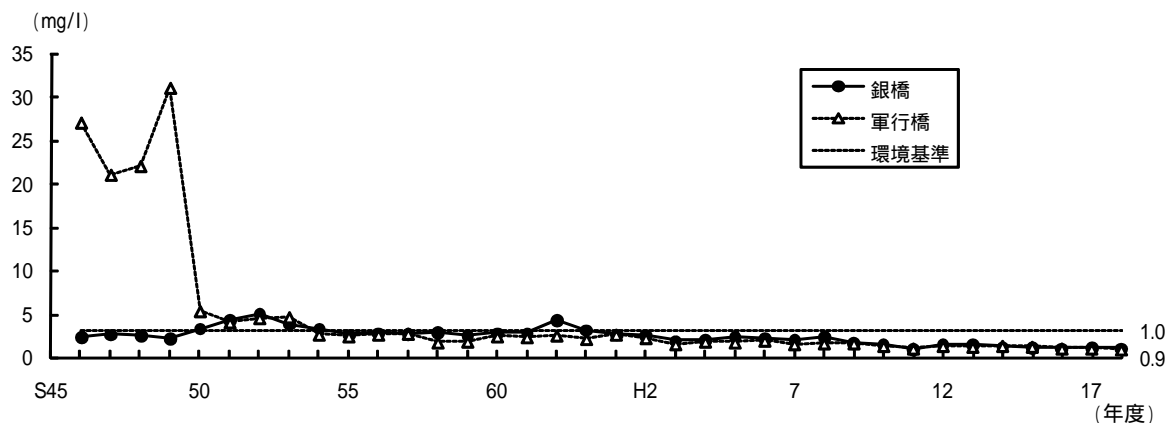


### (1) 猪名川上流

猪名川上流の水質は高度経済成長期に極めて悪化したが、昭和50年代になって急速に改善された。

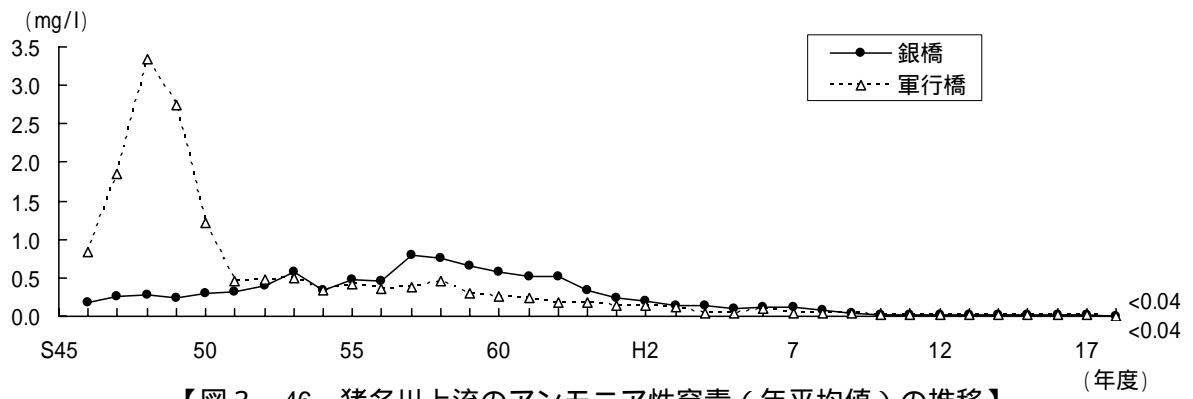
銀橋でのBOD(75%値)は昭和63年度以降徐々に改善されてきており、平成18年度は1.0mg/lとなった。軍行橋では、昭和49年度以降著しく改善され、平成18年度は0.9mg/lであった。両地点ともに環境基準値を下回っている。

アンモニア性窒素は、銀橋では昭和57年度に0.80mg/lを示したものの、その後は低下し、平成1年度は報告下限値(0.04mg/l)未満と大きく改善された。軍行橋では、昭和58年度の0.46mg/l以降著しく改善され、平成18年度には報告下限値(0.04mg/l)未満となった。



【図3 - 45 猪名川上流のBOD(75%値)の推移】

「大阪府公共用水域等水質調査結果(ホームページ)」より作成  
 詳細は資料3 - 10を参照



【図3 - 46 猪名川上流のアンモニア性窒素（年平均値）の推移】

兵庫県「公共用水域の水質等測定結果報告書」より作成  
 詳細は資料3 - 11を参照



【一庫ダム（猪名川）】

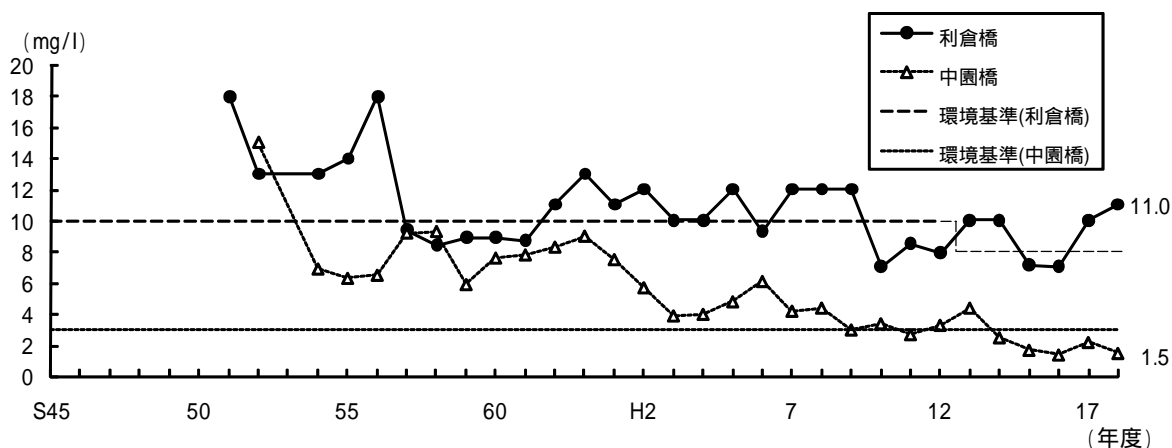
提供：水資源機構

(2) 猪名川下流

利倉橋でのBOD(75%値)は昭和50年後半までは高い値を示していたが、その後増減を繰り返しながら、徐々に減少傾向にある。平成18年度は11.0と昨年度より高い値をしめし、環境基準も超過した。中園橋では、平成元年頃から改善傾向が見られ、平成18年度は1.5mg/lと環境基準値を満たしている。

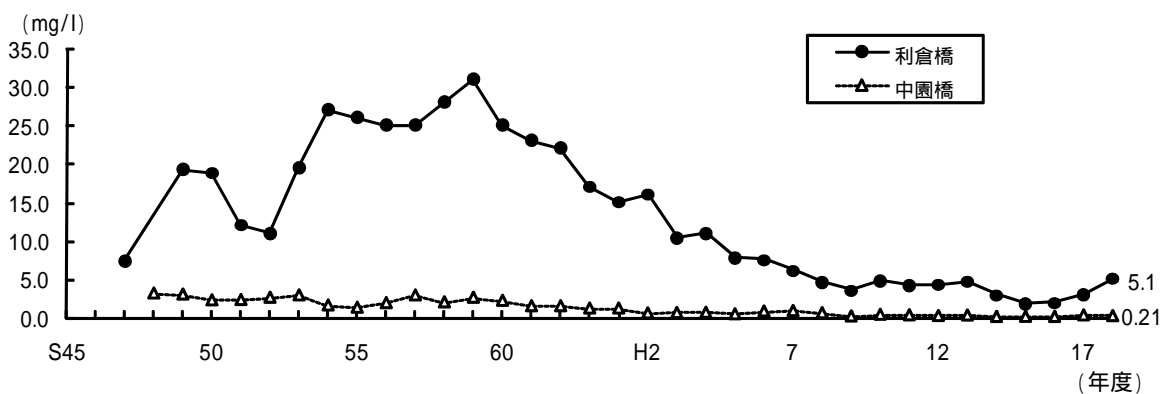
アンモニア性窒素は、利倉橋では昭和59年度に31mg/lと極めて高い値を示したが、その後急速に改善され、平成18年度は5.1mg/lとなった。中園橋では平成2年度以降ほぼ横ばいで推移しており、平成17年度は0.21mg/lとなった。

神崎川の水質は、流域に点在する製紙、染色工場等の工場排水や、北摂地区の開発に伴う汚濁源の増加により、昭和40年代前半までは悪化する一方であった。その後、下水道整備等の水質汚濁防止対策の推進により著しく改善されているものの、依然として汚濁の進んだ河川である。



【図3 - 47 猪名川下流のBOD(75%値)の推移】

兵庫県「公共用水域の水質等測定結果報告書」より作成  
詳細は資料3 - 10を参照



【図3 - 48 猪名川下流のアンモニア性窒素(年平均値)の推移】

兵庫県「公共用水域の水質等測定結果報告書」より作成  
詳細は資料3 - 11を参照